

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

デイリー・ジーザス・ニュース #355

天国におけるイエスの永遠の奉仕

復活したイエスの永遠の未来にわたる言葉と働き

イエスの13回目の復活の出現：

パトモス島のヨハネへ

黙示録 1.4-6, 9-20

=====

ヨハネの手紙4章、アジア州にある七つの教会へ。

今おられ、昔おられ、やがて来られる方と、その御座の前におられる七つの霊から、5 また、忠実な証人、死人の中から最初に生まれた方、地上の王たちの絶対的な支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安があなた方にありますように。

わたしたちをいつも愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、6 わたしたちを王国とし、神であり父である御方に個人的に仕える祭司としてくださった方に、世々限りなく栄光と力がありますように。アーメン。

9 わたし自身、ヨハネ、あなたがたの兄弟であり、イエスにあつて共に苦しみと神の国と忍耐にあずかる者ヨハネは、神の言葉とイエスについてのわたしの証しのゆえにパトモス島にいました。

10 わたしは主の日に御霊によって礼拝していたとき、わたしの後ろでラッパのような大きな声が聞こえた。11 それはこう言った。

「私はあなたに命じます。あなたが見ていることを書物に書き記して、エフェソ、スミルナ、ベルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィア、ラオデキアの七つの教会に送りなさい。」

12 私は振り返って、私に語りかける声の主を見ました。振り返ると、七つの金の燭台が見えました。13 燭台の中央には、人の子のような方が立っていました。彼は足元まで届く長い衣を身にまとい、胸には金の帯を締めていました。

14 その頭と髪は羊毛のように白く、雪のように白かったが、その目は燃える火のようであった。
15 その足は、炉の中で常に赤々と光る青銅のようであり、その声は多くの奔流のとどろきのよう
であった。16 その右手には七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ていた。その顔は、輝き
を放つ太陽のように輝いていた。

17 わたしは彼を見ると、死んだ人のように彼の足元に倒れた。

それから彼は右手を私の上に置いて言いました。 **「恐れるな、と命じる。私は最初であり、最後
である。18私は生きている者だ。私は死んでいたが、見よ、神のいのちに永遠に生きている。そ
して私は死とハデスのかぎを持っている。」**

**19それゆえ、私はあなたに命じる。あなたの見た事、今ある事、そして後に起こる事を書き記
せ。20あなたが私の右の手に見た七つの星と七つの金の燭台との奥義はこうである。七つの星は
七つの教会の使者であり、七つの燭台は七つの教会である。」**

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク
= ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字
が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書
の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	トルコ沖のギリシャのパトモス島
タイムライン	イエスの昇天から約60年後
イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの永遠の奉仕
	復活したイエスの永遠の未来にわたる言葉と働き
タイトル：	イエスの13回目の復活の出現：パトモス島のヨハネへ

イエスの13回目の復活は、「イエス・キリストの物語」と「デイリー・ジーザス・ニュース」の最
終章の幕開けとなります。永遠の未来における天におけるイエスの宣教活動を描いたこの11の場
面、あるいはメッセージは、聖書のクライマックスであり、イエスの生涯を描いた聖書の物語の

クライマックスでもあります。これらの箇所には息を呑むほどの力強いイエスの栄光が示されており、私たちは畏敬の念を抱く崇拜と圧倒的な感謝の念に満たされるはずです。

の昇天から約60年が経ちました。ヨハネは十二使徒の中で最後に生き残った一人でした。ドミティアヌス帝による帝国全土にわたる最初のキリスト教徒迫害（西暦89年から96年）が既に始まっていたと考えられますが、その迫害の規模については歴史家の間でも確信が持てない意見があります。ヨハネは当時としては高齢の80

代の老人で、信仰ゆえにエーゲ海の孤島パトモス島に流刑にされました。主の日に聖霊の力によって礼拝していたヨハネの前に、突然イエスが現れました。

昇天後の復活の御姿におけるイエスの視覚的な輝きは、まさに衝撃的です。パウロはダマスコへの道で、イエスを太陽のように眩しいほど明るい光として体験しました。ヨハネの前に現れたイエスの顔は、「**輝きを放つ太陽のように輝いていた**」のです。これは、ヨハネに、はるか昔、変容の山で三使徒の前で変容し、顔が太陽のように輝いていたイエスの栄光を思い起こさせたに違いありません

ヨハネは言葉による比喻を用いて、このイエスの出現における栄光を捉えようとしていました。イエスの髪はまばゆいばかりに白く輝き、足もまた真っ赤に熱せられた溶けた青銅のように輝いていました。目は燃え盛る炎のように輝き、声はナイアガラの流れのように、幾筋もの川が合流する轟音のようでした。手は力強く、輝く星をはめ込めるほどに大きく、大祭司としての衣をまとっていました。そして、注目と栄誉の中心、七つの教会を表す燭台の「**中心**」に立っていました。

この描写に貫かれている認識は、無限の数の無限の宇宙を創造し満たすほどの力を持つ神の無限で神聖な栄光が、イエスの栄光ある人間性の表面下で煮え立っているというものです。この人間性はイエスの神性と両立しますが、決して神性を封じ込めたり制限したりすることはできません。この栄光あるイエスは、釘の跡が残る両手に、神性の無限の力と権威のすべてを握っています。イエスの輝きはあまりにも強力であるため、もはや太陽や天にあるいかなる創造された光も必要ないことが分かります。イエスの顔から発せられる栄光だけが、宇宙のあらゆる星と太陽の光を合わせたよりも明るく、天を永遠に照らすでしょう。イエスは素晴らしい！

このように主の栄光を目の当たりにしたヨハネは、死人のように倒れ伏した。この生ける神に比べれば、ヨハネの脆く墮落した古い人間性は、生ける死に等しいものだった。彼は主の前で塵と灰に等しい存在だった。

ヨハネの死に似た性質とは対照的に、イエスはご自身の生ける性質を強調されました。「**わたしは生きている者です。わたしは死んでいましたが、今見よ、神の命の中に永遠に生きているのです。そして、わたしは死とハデスの鍵を持っています。**」イエスは神の命の中に生きている

だけでなく、すべての被造物の死と生の鍵でもあります。イエスは神の不滅の命の中に君臨しています。イエスは永遠に崇拝され、支配されるにふさわしい方です。

イエスの地上における受肉において隠されていた神の栄光は、今や復活し昇天した主において再び完全に現されています。この出現は、昇天したイエスにおける神の力と威厳を、心を奪われるほど輝かせています。これは、イエスの完全な生涯の物語のクライマックスとなる、永遠の栄光の啓示のほんの始まりに過ぎません。

応用：

栄光に輝いたイエスは、畏敬の念を起こさせる御方です。私たちは皆、イエスの前に死人のようにひれ伏すべきです。しかし、四福音書のイエスは、ヨハネを落ち着かせるために彼に手を置きました。ユダヤとガリラヤの多くの人々に言われたように、恐れるのをやめるようにヨハネに命じたのです。そうです、イエスの神聖な栄光は、昇天によって今明らかにされています。しかし、イエスの慈悲と愛は変わりません。イエスは、同じイエスなのです。

昇天したイエスの天における11の場面からなるこの最後の一連の場面は、イエスに関する聖書の証言全体を完璧に締めくくっています。イエスは、永遠の神性に永久に、永遠に人間性を加えられ、以前の栄光の状態に戻られました。イエスは神人です。そして、人間性と神性の結合体であるイエスは、その神性を私たちの人間性にも開いてくださいました。これこそが、イエスを私たちの救い主、主としているのです。

イエスは、大祭司の祈りの中で、私たちがご自身の永遠の神の栄光を真に見ることができるようにと祈られました（ヨハネ17:24）。変容の際、地上での宣教活動の間、その栄光をほんの3人の弟子だけがほんの一瞬だけ見ました。今、その栄光は私たちを含め、すべての被造物に永遠に見えるように展示されています。この11の場面は、昇天されたイエスの永遠の栄光を今、まさにこの地上で示すことによって、私たちを永遠の礼拝へと備えさせてくれます。私たちの足はイエスの輝かしい栄光に輝いておらず、墮落した罪深い世界との日々の接触によって汚れているのです。

「わたしたちをいつも愛して下さる方、その血によってわたしたちを罪から解放し、6 わたしたちを王国とし、神であり父である御方に個人的に仕える祭司としてくださった方に、世々限りなく栄光と力がありますように。」

司祭は崇拝者です。だから崇拝しましょう！

イエスの祈りを捧げて、この最後の11の場面でイエスの栄光を見て、人生でかつてないほど心からイエスを崇拝しましょう。

